

江戸から明治、大正、昭和…

わが国初の総合的保育史として名高い、

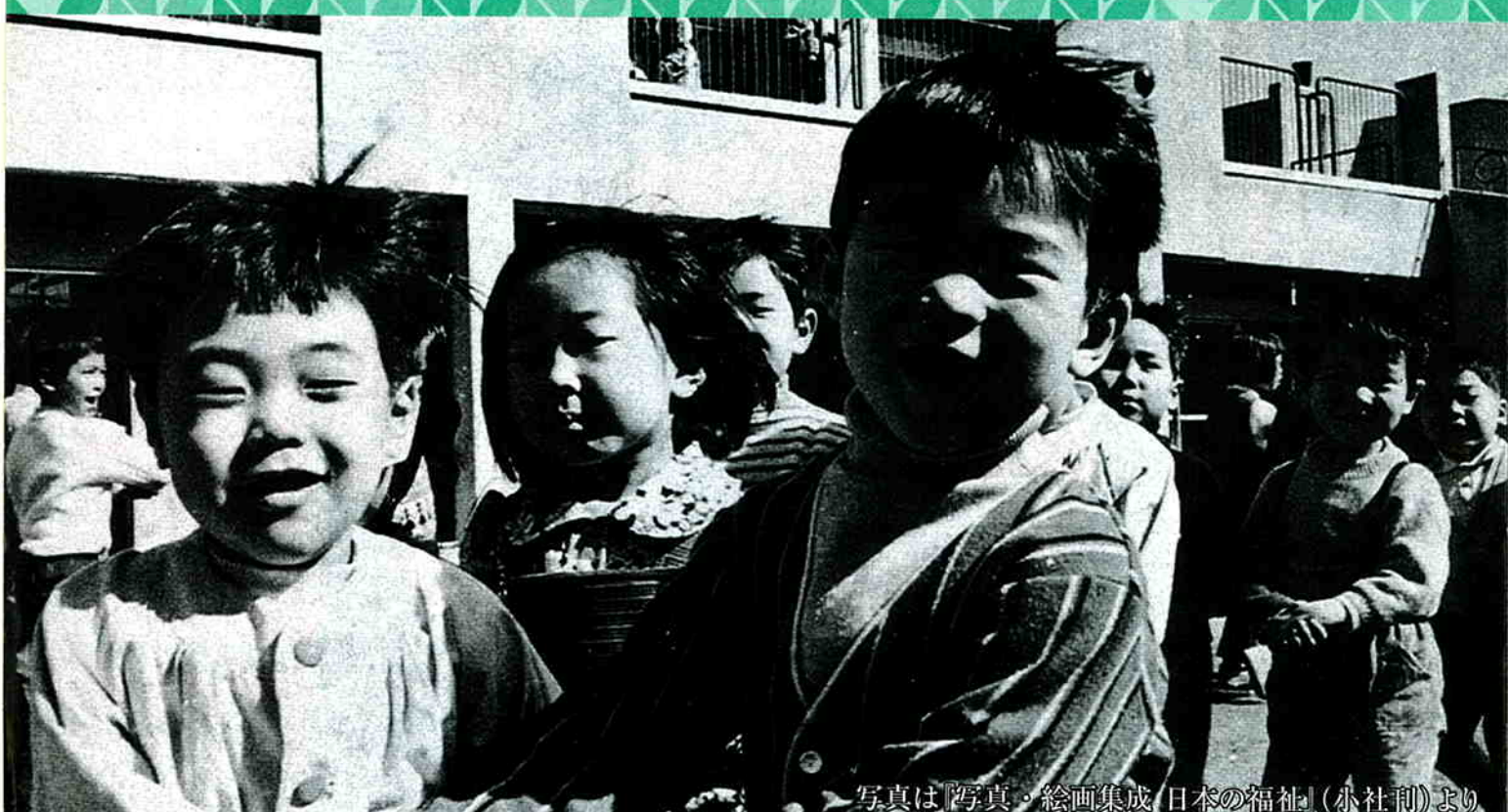
先駆的共同研究がついに復刻！

日本保育学会 著

日本幼児保育史

全六巻

日本図書センター



写真は「写真・絵画集成 日本の福祉」(小社刊)より

近代日本の幼児保育の歴史を

豊富な資料に基づき立体的に描き出す！

特色

- 江戸期〜戦後期まで、日本の幼児保育の歴史を貴重な資料と共に俯瞰する！
- 岡田正章、遠藤明子、木原博子、穴戸健夫、長玲子、津守真、水野浩志、村山貞雄など保育研究の先駆者たちによって構成される執筆陣！
- 資料の少ない戦時中の幼児保育の実態をアンケートなどの貴重な調査を交えて明らかにする！
- 総約一、九〇〇頁、巻末に便利な索引つき！
- 第六巻には、九十七頁におよぶ「日本幼児保育史年表」を収録！



目次

第一巻

● 江戸時代から明治十九年頃までを中心に、幼児保育の黎明期を記述！
(序／まえがき／江戸時代の幼児保育の概観／江戸時代にあったと思われる保育施設(江戸中期)／江戸時代における保育施設の提唱(嘉永二年)／明治前期の幼児保育の概観(明治元年)／明治十九年)／維新政府の幼児教育政策(明治初年)／外国人の始めた「亜米利加婦人教授所」(明治四年)／「学制」に現われた幼児教育制度(明治五年)／京都にあったといわれる「鴨東幼稚園」(明治六年)／疑問の多い伊沢修二の保育施設(明治六年)／最初の公立幼稚園「幼稚園」(明治八年)／古都に開設された「幼稚園遊戯場」(明治八年)／子守学校の創設の動き(明治八年)／草創期の幼児教育説(明治八年)／明治九年)／東京女子師範学校附属幼稚園の創立と保育課程(明治九年)／揺籃期の幼児教育関係法(明治十年)／明治十四年)／関信三の「幼稚園創立法」(明治十一年)／鹿児島に創られた最初の県立幼稚園(明治十二年)／大阪府立模範幼稚園の開設とその姿(明治十二年)／仙台に創られた「木町通小学校附属幼稚園」(明治十二年)／揺籃期と啓蒙期の幼児教育説(明治十二年)／明治十八年)／伝統と資料に富む「愛珠幼稚園」(明治十二年)／東京に創られた私立「桜井女学校附属幼稚園」(明治十三年)／東京に創られた公立「江東女子小学校附属幼稚園」(明治十四年)／揺籃期のその他の幼稚園(明治十年)／明治十四年)／揺籃期と啓蒙期の保母養成の姿(明治十一年)／明治十九年)／簡易幼稚園の奨励(明治十五年)／渡辺嘉重の創った「子守学校」(明治十六年)／幼稚園の方法の奨励(明治十七年)／啓蒙期の東京市の幼稚園の姿(明治十五年)／明治十九年)／啓蒙期の大阪市の幼稚園の姿(明治十五年)／明治十九年)／啓蒙期の京都市の幼稚園の姿(明治十五年)／明治十九年)／啓蒙期のその他の幼稚園の姿(明治十五年)／明治十九年)／索引)

第二巻

● 明治二十年頃から明治末期まで。普及期の幼児保育の姿が浮かび上がる！
(序／まえがき／明治後期の幼児保育の概観(明治二十年)／明治四十五年)／普及期の幼児教育関係法(明治二十年)／明治二十一年)／幼稚園・保育科など保育施設の名稱／普及期の幼稚園の発達の姿(明治二十年)／明治二十一年)／普及期の幼稚園の保育課程(明治二十年)／明治二十一年)／キリスト教系の幼稚園の努力／ハウとその影響／神戸の「頌栄幼稚園保母伝習所」(明治二十二年)／普及期の保母養成の姿(明治二十二年)／明治二十一年)／幼稚園に現われた貴族性と大衆性／農村での保育事業(明治二十三年)／赤沢鍾美の開いた新潟静修学校(明治二十三年)／明治後期に生まれた貧民のための保育施設／保育的的性格を持った「簡易幼稚園」の設置(明治二十五年)／産業の発達と最初の工場附設保育所／中村五六の「幼稚園摘葉」の内容(明治二十六年)／普及期の保育会の結成の動き／京阪神三市聯合保育会の結成と活躍(明治二十年)／幼稚園保育及設備規程」と公布の事情(明治三十二年)／定着期の幼稚園の保育課程／二葉幼稚園の設立とその意義(明治三十三年)／最初の仏教主義の幼稚園(明治三十四年)／定着期の幼児教育思想／日露戦争と戦時保育事業(明治三十七、八年)／定着期の保母養成の姿(明治三十二年)／明治四十五年)／定着期の保育会の動き(明治三十二年)／明治四十五年)／愛染橋保育所など明治末期の保育所／岡山県に建てられた多角形の遊戯室を持つ園舎(明治四十一年)／明治時代から大正時代へ／索引)

第三巻

● 大正期における幼児保育の発展と「幼稚園令」制定までの動きを見る！
(序／まえがき／大正期の幼児保育の概観／大正期の保育に関する国の規程／大正期の幼稚園の普及／大正期の託児所／大正期の保育内容の姿／大正期の保育四項目の内容／土川五郎の律動および表情遊戯とその影響／大正期の保育方法の姿／大正期の園外保育の姿／大正期の保育方法改善の努力／モンテッソーリ法の導入とその批判(大正二年)／硬教育の幼稚園／大正期の幼稚園の施設と保育用具／大正期の保育に関する文献／大正期の保母養成の姿／大正期の保育会の姿／キリスト教主義幼稚園の特徴／仏教主義幼稚園の特徴／大正初期における保育効果の研究(大正二年)／全国的な保育研究大会(大正四年)／文部省主催の全国的保育講習会(大正五年)／大阪における露天保育の努力(大正十年)／幼稚園令制定の動き／幼稚園令の制定とその意義(大正十五年)／「幼稚園令発布記念全国幼稚園大会」の開催とその内容(大正十五年)／新たに加わった保育項目「観察」(大正十五年)／大正時代から昭和時代へ／索引)

第四巻

● 昭和初年から昭和十八年にかけて、幼児保育の「現代史」の始まりを俯瞰！
(序／まえがき／昭和前期の幼児保育の概観／昭和前期の幼稚園の普及／昭和前期の託児所の普及／昭和前期の保育方法の姿／昭和前期の保育五項目の内容／昭和前期の保育方法の姿／昭和前期の回想による保育の姿／昭和前期の幼稚園の施設と保育用具／昭和前期の保母養成の姿／昭和前期の保育会の姿／昭和前期の全国的保育大会／昭和前期の保育運動／仏教保育協会の活動(昭和四年)／基督教保育聯盟の活躍(昭和五年)／昭和六年)／幼稚園に関する国の規程(昭和六年)／昭和十八年)／保育問題研究会の設立(昭和十一年)／昭和十八年)／社会事業法の制定(昭和十二年)／教育審議会の幼稚園に関する答申(昭和十二年)／索引)

第五巻

● 戦時下の幼児保育のあり方を、貴重な調査により明らかにする！
(序／まえがき／序章／戦争中の幼児教育関係法規／戦争中の幼稚園の普及と衰退／戦争中の託児所の普及と衰退／戦争中の幼稚園の状況調査／幼稚園の休園・改称／空襲による被災／園児数をめぐる問題／回想による保育の姿／戦争中の保育内容／遊戯の内容／唱歌の内容／絵画の内容／戦争中の保育方法／保育時間の変化／警報と保育／戦争と保育の困難性／農村における季節託児所の状況／戦時託児所の状況／平田のふの「子供の村権災記」／幼児の疎開保育／戦争中の保母養成の姿／保育に関する文献／索引)

第六巻

● 終戦から昭和二十三年の「保育要領」発行まで。幼児保育の新たな出発！
(序／まえがき／序章／学校教育法の制定／児童福祉法の制定／終戦後の幼稚園の復興／終戦後の保育所の復興／終戦後の幼稚園の状況調査／禁止された保育事項／終戦直後期の保育内容の変化／終戦直後期の歌の内容／終戦直後期の絵画の内容／終戦直後期の遊戯と遊びの内容／終戦直後期の保育方法／終戦直後期の保育課程／終戦後の保母養成の姿／終戦後の保育に関する文献／終戦後の保育会の姿／民主保育連盟の発足／全国保育連合会の発足／保育学会の発足／保育要領の刊行／(付)日本幼児保育年表／索引)

本書を推薦します

先人の歩みに学び、今の保育制度や
保育実践のルーツをさぐる

森上 史朗

(子どもと保育総合研究所代表、元日本保育学会副会長)

今回、復刻出版される『日本幼児保育史』は二つの大きな特色をもつ。その一つは、本書がわが国最初の総合的な保育史であるという点である。本書以前には、幼稚園もしくは、保育所に限定された保育史は存在していたが、その両者を総括的に扱ったものは皆無であった。日本保育学会は一九五六(昭和三十一年)に保育史共同研究委員会を組織し、取り組みを開始した。そして研究委員が各地に赴き、江戸時代から明治、大正、昭和初期にかけての様々な新資料を発掘し、あるいは関係者への詳細なヒヤリングを行うなどして、多くの新しい史実を明らかにした。これによってはじめてわが国の幼稚園と保育所(その前身である託児・保育施設も含めて)の歩みの全貌が明らかとなったのである。

第二の特色は、類書の多くが保育の全国的な歩みに偏っているのに対して、本書では保育の地方史、さらには先駆的な園の実践なども紹介されている点である。これによって、地域により幼稚園と保育所が偏在している経緯や、現在、各地で行われている実践がどのようなルーツに支えられているかなどを理解することが可能になる。保育の研究者はもちろん保育現場の実践者にも座右に備え、活用されることを勧めたい。

本書について (序文より)

わが国に幼稚園がはじめてできたのは明治九年であり、現在のお茶の水女子大学附属幼稚園の前身で当時の東京女子師範学校附属幼稚園がその最初のものであった。それ以来すでに九十二年(本書第二巻刊行当時)を経過している。また、今日の保育所すなわち古く託児所と称せられていた保育施設がはじめてできたのは、明治二十三年であり、新潟市の家塾静修学校の附属施設として赤沢鐘美の開いたものが最初のものであった。したがって託児所もその創設以来すでに七十八年の歳月を経ており、わが国の保育施設はすでにかの年月にわたる歴史を持つているわけである。

しかしわが国の保育施設の発達に関する研究文献は、かつて昭和九年に出版された倉橋・新庄共著の『日本幼稚園史』があるのみで、それも東京女子師範学校附属幼稚園を中心とした沿革史的要素が強く、全国的な幼稚園の客観的資料に基づく発達史は殆んど皆無であった。ところが第二次大戦により相当の貴重資料が散逸してしまったので、何とか保育学会として客観的資料に基づく日本幼児保育史を早急にまとめることの必要が痛感された。

日本保育学会ではこのような状況にあるわが国の保育史の研究をすすめるために、すでに昭和三十一年以来保育史共同研究委員会を組織し、研究を行なってきた。その成果の一部はすでに昭和三十一年の第十回大会以来、大会において発表し、また「幼児の教育」誌上に発表するとともに「明治保育史年表」を刊行した。これらの研究は七名の共同研究小委員によって精力的に進められてきたものである。

これらの保育史研究の成果は、江戸時代から明治、大正、昭和の各年代にわたっているが、今回その成果をまとめて、日本幼児保育史として刊行することとなった。これらの成果をまとめるのに長い間にわたって苦心された小委員会の諸氏の労を多とするとともに、この研究成果がわが国の保育研究の上に多大の貢献をすることができ、心から喜びたい。

(本書第一巻序文より抜粋。日本保育学会会長(当時)・山下俊郎)

日本幼児保育史 全6巻

【著者】日本保育学会

■定価：81,900円(本体：78,000円+税)

ISBN978-4-284-30329-3

■体裁：A5判・上製・総約1,900頁

■底本：『日本幼児保育史』全6巻
(フレーベル館刊、1968-75年)

2010年2月刊行

＜おすすめ先＞

保育学・保育史・教育史・社会福祉などの研究者。大学・短大図書館・公共図書館など。

好評関連図書

子どもの心身の健全な発育のために！
諸領域の専門家が織りなす児童・幼児研究の先駆的労作！

子供研究論大系 全10巻

【編集】日本両親再教育協会

■定価：99,750円(本体：95,000円+税)

ISBN978-4-284-30273-9

■体裁：A5判・上製・総約3,900頁

■底本：『子供研究講座』全10巻
(先進社刊、1930-31年)



子どもたちのため、何をなすべきか？
あらゆる角度から迫る幻の講座！

子ども精神衛生講座 全11期・全15巻

【編集】安田生命社会事業団(現・明治安田こころの健康財団)

■揃定価：168,000円(揃本体：160,000円+税)

【第I期】全8巻 定価：84,000円(本体：80,000円+税)

ISBN978-4-284-30218-0

【第II期】全7巻 定価：84,000円(本体：80,000円+税)

ISBN978-4-284-30227-2

■体裁：A5判・上製・総約4,600頁

■底本：『安田専門講座』全30巻

(安田生命社会事業団(現・明治安田こころの健康財団)刊、1975-86年)



親と子の時代の葛藤を共有し、新しい関係を見出すために！

文献選集 現代の親子問題 全11期・全20巻・別巻1

【監修】広井多鶴子(実践女子大学教授)

小玉亮子(お茶の水女子大学准教授)

■揃定価：262,500円(揃本体：250,000円+税)

【第I期】子育てのエージェント 全10巻

定価：126,000円(本体：120,000円+税)

ISBN978-4-284-30187-9

【第II期】「問題」とされる親と子 全10巻・別巻1

定価：136,500円(本体：130,000円+税)

ISBN978-4-284-30198-5

■体裁：A5判・上製・総約6,500頁



少年犯罪に対する認識を再検証する！

戦前期少年犯罪基本文献集 [明治・大正編] 全11期・全28巻

【監修】鮎川潤(関西学院大学教授)

■揃定価：283,500円(揃本体：270,000円+税)

【明治・大正編I】全10巻

定価：94,500円(本体：90,000円+税)

ISBN978-4-284-50132-3

【明治・大正編II】全9巻

定価：94,500円(本体：90,000円+税)

ISBN978-4-284-50143-9

【明治・大正編III】全9巻(2010年1月刊行)

定価：94,500円(本体：90,000円+税)

ISBN978-4-284-50153-8

■体裁：A5判・上製・総約12,300頁



日本図書センター

〒112-0012 東京都文京区大塚 3-8-2

TEL 03-3947-9387 FAX 03-3947-1774

<http://www.nihontoshoko.co.jp>

取扱書店